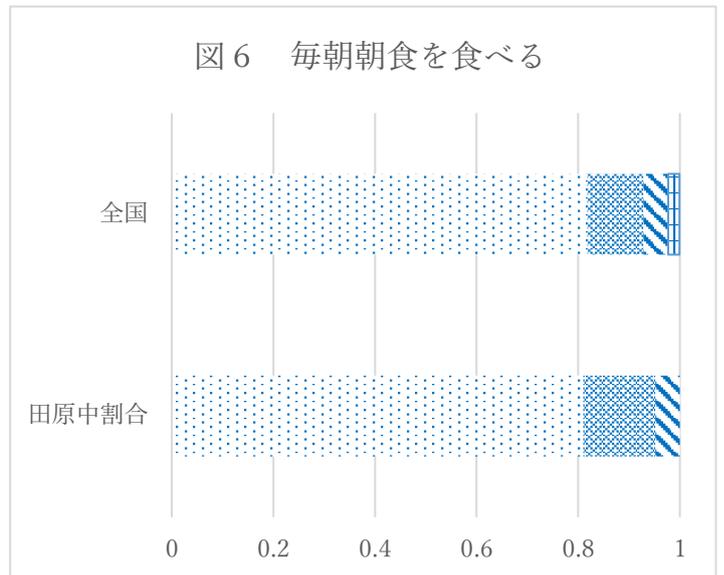
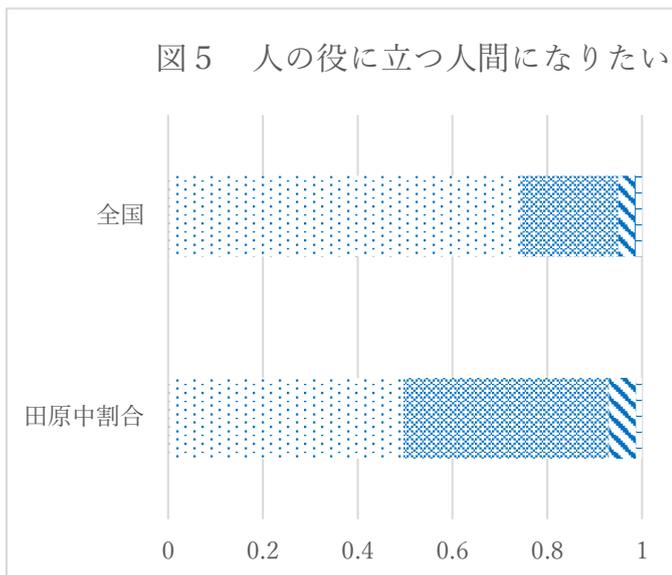
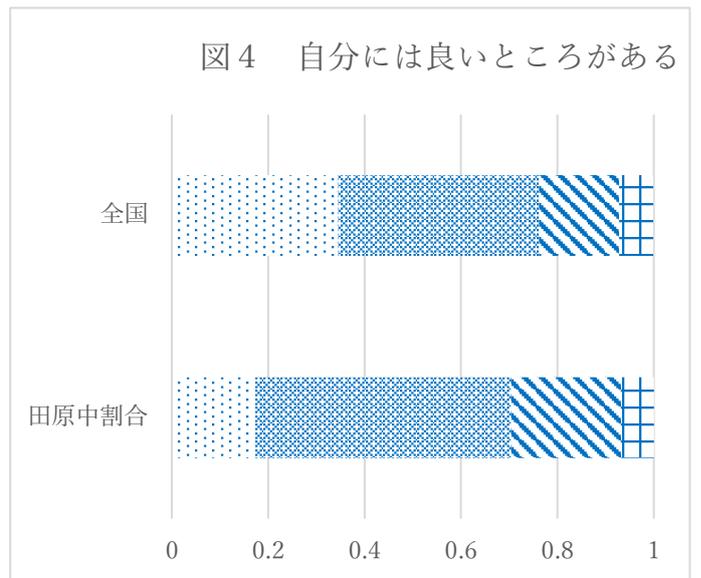
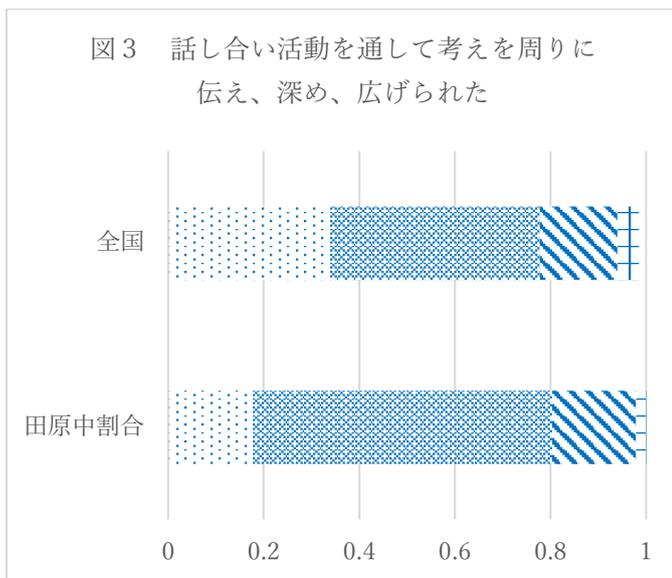
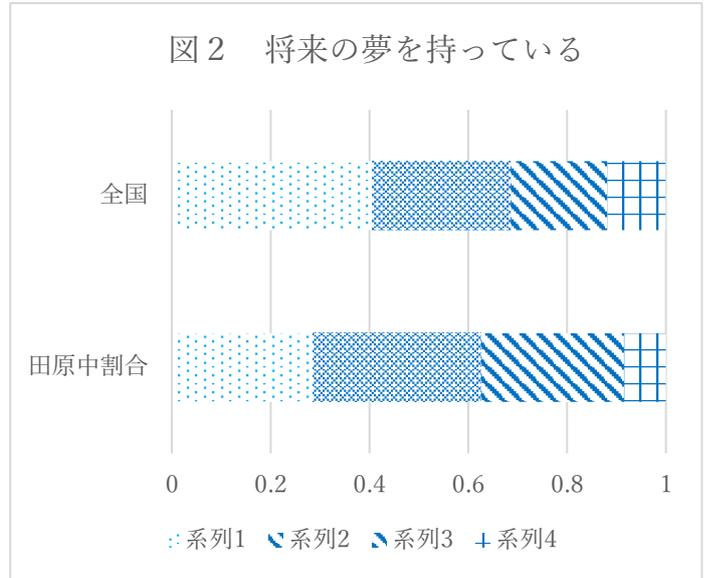
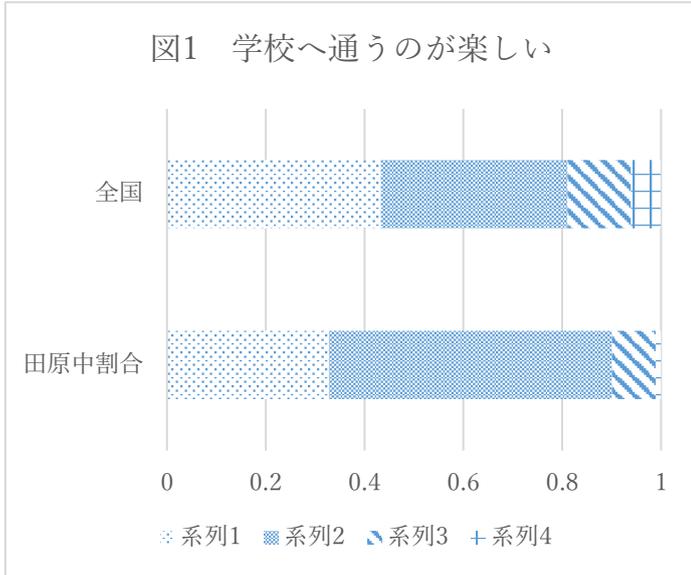


令和3年度 アンケートから見た田原中学校

※系列1：大変当てはまる、系列2：あてはまる、系列3：あてはまらない、系列4：全く当てはまらない
 全国の数値は、令和3年度全国学力学習状況調査アンケート調査より（全国の3年生との比較）



令和3年度の成果と課題

○「図1 学校へ通うのが楽しい」より

「大変当てはまる」は全国より小さいが、肯定的回答をした割合は全国より高い。また、「全く当てはまらない」も全国に比べて低い。ただし、「全く当てはまらない」が5名いることが課題と思われる。

○「図2 将来の夢を持っている」「図4 自分には良いところがある」より

両者とも「大変当てはまる」も肯定的な回答も全国平均より低い。これらより、田原中の生徒は自己肯定感が低く、そのため将来への展望が見えていないと思われる。今年度は、自己肯定感を高める学校、キャリア教育を通して、将来に夢が持てる学校を目指したいと思う。

○「図3 話し合い活動を通して、考えを周りに伝え、深め、広げることができた」より

「大変当てはまる」は全国より少ないが、肯定的な回答は全国よりも若干多い。このことから、田原中学校が有意義な話し合い活動が行われていると言える。しかし、ここには載せていないが「授業の中で、めあて・まとめが示されていたと思います？」で否定的な回答が11名(2.1%)、「授業の中で、振り返り活動を良く行っていましたか？」で否定的な回答が27名(5.7%)、「勉強の基礎的・基本的な力が身についてきたと思いますか？」に否定的な回答が64名(13.5%)あった。これらの回答の中には、「何がめあてなのか、何がまとめなのか、何がふりかえりなのか分からない生徒」も一定数いると思われる。その原因として、聞く力、見る力などの不足により認識力が不足している可能性もある。そのため、認識力を補う取り組みも取り入れる必要性があると思われる。

○「図5 人の役に立つ人間になりたい」より

肯定的な回答をした生徒は全国平均並みであるが、「大変当てはまる」と回答した生徒は全国平均より低い。個人的には、「人の役に立つ人間になりたい」に「大変そう思う」と回答している生徒が、「人の役に立たない人間はダメな人間である」と考えるのならば、その点は指導しなければいけないと考える。職員集団が、数字だけに惑わされず、トータルの人間性として見つめているのではないかと考えている。

○「図6 毎朝朝食を食べる」より

肯定的な回答をしている生徒は、全国平均より多く、食べていない(全国では、「あまり食べていない」と「全く食べていない」を合計した)は、非常に少ない。(本校では22名(4.5%)これは、本校校区は、家庭の教育力が全国平均また、それ以上あると思われる。そのために、地域を含む家庭の協力を得られるように取り組むことが大切と思われる。

○まとめ

全体的に見て、本校の取組は大変効果的で成果を挙げていると思われる。(学力の面での成果は大変すばらしいと聞いています。)基本的には現在の取組を継続して頂きたいと考えている。

今年度は、地域や家庭と共に活動する場面も増えると思われる。大変な面もあると思うが、学校の考え方を様々な場面で広報するように努めるので、先生方には一層家庭や地域との連携をお願いしたい。

また課題として、自尊感情の低さがあげられる。今年度も、掲示や生徒の良さを発揮する場面を数多く設定し、見える形で、生徒の良さを表現して頂きたい。家庭や地域との連携ともつながるが、生徒の課題だけでなく、生徒の良い面も知らせて頂けるとありがたいと感じている。